【別紙様式Ⅰ】 令和7年度　学校評価報告書

学校名　厚木市立依知小　　学校

校長名　押切　晴美

厚木市教育委員会の基本目標	1　自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2　自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3　変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

学校教育目標	学校経営の方針
「自律と尊重」 自律：自分で考え　自分で決めて　自分で行動する児童を育てる。 尊重：互いに認め合い　折り合いをつけながら生活できる児童を育てる。	・学校（全教職員）、家庭（全保護者）、地域の協働体制で、子どもたちが安心して自己発揮できる学校づくりを目指す。 ・「ホーム」中心に学ぶことができる授業づくりをめざす。 ・すべての教職員ですべての子どもを育てる意識をもち、チームで児童支援をする。 ・ひとりひとりの「自律した学び」に伴走する。

今年度の重点目標

①ホーム中心の学び　②自律した学び手の育成　③学ぶ意欲の向上　④児童指導、児童支援体制の充実　⑤　地域学校協働活動の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
ホーム中心の学び	2・3	・校内支援ルームの充実 ・ホームクラスでの授業改善	・校内支援ルーム（依知っ子ルーム）の充実により、教育的ニーズに合わせ一人一人への支援ができた。 ・気持ちを落ち着けて学ぶ「自律室」の新設は効果的であった。 ・高学年専科（算数）の配置により、主体的な学びの充実が図られた。	・児童の実態に合わせた校内支援ルームの充実を図る。 ・算数科における「わかる・できる」を目ざした指導体制の工夫を行う。
自律した学び手の育成	1・3	・自主学習の支援 ・児童の主体的な学びを支える授業改善	・学びのグループを中心に「自律した学び」の捉えを整理し、職員間で周知した。しかし学年ごとの「自立した学習」への具体的な取り組み方については課題が残る。	・「自律した学びマニュアル」を改訂し、各学年で具体的な取組を児童・保護者へ周知する。
学ぶ意欲の向上	1	・校内研究国語科の授業改善 ・自主学習でのGIGAスクール端末の有効な活用	・校内研究の充実（外部講師による国語科のモデル授業参観や講演）により、教員の授業改善への意欲が向上し、児童の学習意欲の向上が図られた。 ・GIGAスクール端末の有効活用ができ、自主学習への意欲が高まった。	・学ぶ意欲が向上する学級づくりと授業づくり ・GIGAスクール端末を使った家庭学習の仕方の研究
児童指導、児童支援体制の充実	2	・学期ごとの児童と担任の面談 ・サポートタイムの充実 ・週1回の支援会議	・定期的な担任との面談で、子どもたちの心理的安定が図られた。 ・週1回の支援会議や打合せ後の児童理解タイムで、全ての教職員で全ての子どもの情報共有をし、支援することができた。 ・サポートタイムで、全ての職員ですべての子どもを支援した。	・校内支援体制の目的について、全職員での共通理解を図る。 ・サポートタイムの見直し、時間割編成の工夫。
地域学校協働活動の推進	3	・スタートカリキュラム ・地域の方との協働活動	・スタートカリキュラムの充実で、1年生児童の心の安定が図られた。 ・投げ方教室の開催で、体力テストの結果の向上につながった。 ・5年生の体験学習では、地域連携により充実した活動につながった。 ・枝切り、縄跳び台の修繕等、教育環境の充実が図られた。	・スタートカリキュラムの理念を共有し、学校全体で取り組む。 ・地域の方々との絆づくり（工作教室の充実） ・地域の施設利用や公民館とのつながりを図る（学校運営協議会を中心とした5年生の体験活動の継続）

今年度の学校関係者評価委員会からの意見
事前に評価アンケート結果を配付し、委員から、質問・意見をいただいた。「公園の使い方のマナーに関する意見は、学校ではなく家庭教育ではないか。」という学校にとって有難いご意見や、教職員の挨拶については、厳しいご意見をいただいた。また、卒業式や入学式の来賓については、お世話になっている地域の方に多く出席していただきたいという学校の意向を理解していただき、案内状と湯茶の接待、紹介の廃止について賛成していただいた。現在行っている地域学校協働活動の充実や推進をしつつ、持続可能な連携をしていこうという確認をした。
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針
半数の職員が入れ替わり、依知小がこれまで築き上げてきたものを確認しながら意識づけしてきた。学校教育目標「自律と尊重」については、全教職員が理解し、意識していると感じる。児童にも浸透しつつあるが、折に触れ伝えていく必要がある。1年生のスタートカリキュラムは、1年担任とスタカリボランティアとの打ち合わせの重要性を感じた。学校としてスタートカリキュラムをどう捉え運営していくのかを共通理解し、児童の主体性と心の安定を図っていきたい。「すべての子どもがホーム中心に学ぶことのできる学級づくり・授業づくり」をめざし、多様な学びに対応していきたい。また、引き続き、児童のメタ認知力を促し、目的意識をもたせ、主体的な学びができるような児童支援をめざしたい。